



Nestlé Good food, Good life

2024年2月21日

ネスレ日本株式会社

ネスレ日本、JR 貨物グループと連携し

食品・飲料業界初^(※1)の中距離帯での定期貨物鉄道輸送を開始

200トン/日のトラック輸送を貨物鉄道へ移行、二酸化炭素(CO₂)排出量を年間約900トン削減

ネスレ日本株式会社(本社:兵庫県神戸市、代表取締役社長兼CEO:深谷 龍彦、以下「ネスレ日本」)は、日本貨物鉄道株式会社(本社:東京都渋谷区、代表取締役社長兼社長執行役員:犬飼 新、以下「JR 貨物」)とそのグループ会社である全国通運株式会社、日本運輸倉庫株式会社(以下、JR 貨物と併せて「JR 貨物グループ」)と、長距離輸送を対象としてきた貨物鉄道による輸送を、より貨物量の多い中距離輸送にも拡大し、2024年2月より、静岡～大阪間における「ネスカフェ ポトルコーヒー」の定期貨物鉄道輸送を開始しました。

(※1)1社で200トン/日規模の輸送において、ネスレ日本、JR 貨物調べ(2024年1月末時点)



JR 静岡貨物駅で貨物コンテナを積み替える様子



食品・飲料業界初^(※1)の中距離帯での定期貨物鉄道輸送 開始式

ネスレ日本株式会社 日本貨物鉄道株式会社 全国通運株式会社 日本運輸倉庫株式会社

2024年2月21日(水)に実施した式典の様子(左から):

日本運輸倉庫株式会社 代表取締役社長 柏井 省吾

日本貨物鉄道株式会社 代表取締役社長兼社長執行役員 犬飼 新

ネスレ日本株式会社 代表取締役社長兼CEO 深谷 龍彦

全国通運株式会社 代表取締役社長 永田 浩一

ネスレ日本は、バリューチェーン全体を通じ環境へ配慮する取り組みを行っており、物流分野においては、二酸化炭素(CO₂)排出量の低減のために、トラックから貨物鉄道や船舶などに輸送を切り替える「モーダルシフト」(※参考資料)を推進しています。貨物鉄道や船舶を用いた輸送は、一度に大量輸送が可能となります。トラック輸送よりも環境負荷が小さいだけでなく、トラックドライバーの長距離走行を減らし、効率よく輸送作業を行うことができるため、昨今大きな社会問題となっているトラックドライバーの負担軽減の一助にもなる点が注目されています。

「モーダルシフト」は、長距離になるほど効率的な輸送が期待できることから、これまでは長距離輸送(走行距離 500km 以上)が中心でした。このたびネスレ日本と JR 貨物グループは、より貨物量の多い中距離輸送(走行距離 500km 以下、200～350km を中心帯に想定)においても新たな輸送網の構築に取り組み、2024年2月よりネスレ日本 島田工場(静岡県島田市)から JR 貨物 百済貨物ターミナル駅(大阪府大阪市)を經由した関西方面への「ネスカフェ ポトルコーヒー」の中距離帯での定期貨物鉄道輸送を開始します。

なお、本取り組みの開始により、静岡エリアから関西エリアへ200トン/日のトラック輸送を鉄道へ移行することとなり、年間の二酸化炭素(CO₂)排出量は約900トン削減できる見込みです。また、今後も段階的に対象品目と地域の拡大に取り組む予定です。

ネスレは、「食の持つ力で、現在そしてこれからの世代のすべての人々の生活の質を高めていきます」を存在意義(パーパス)として掲げ、安全で、美味しく、環境にも配慮された製品やサービスを皆さまにお届けできるよう、今後も努めていきます。

■貨物鉄道輸送の様子



ネスレ日本 島田工場(静岡県島田市)で製品を貨物コンテナに積む様子



貨物コンテナを載せ、ネスレ日本 島田工場(静岡県島田市)から
JR 静岡貨物駅に向けて出発する様子

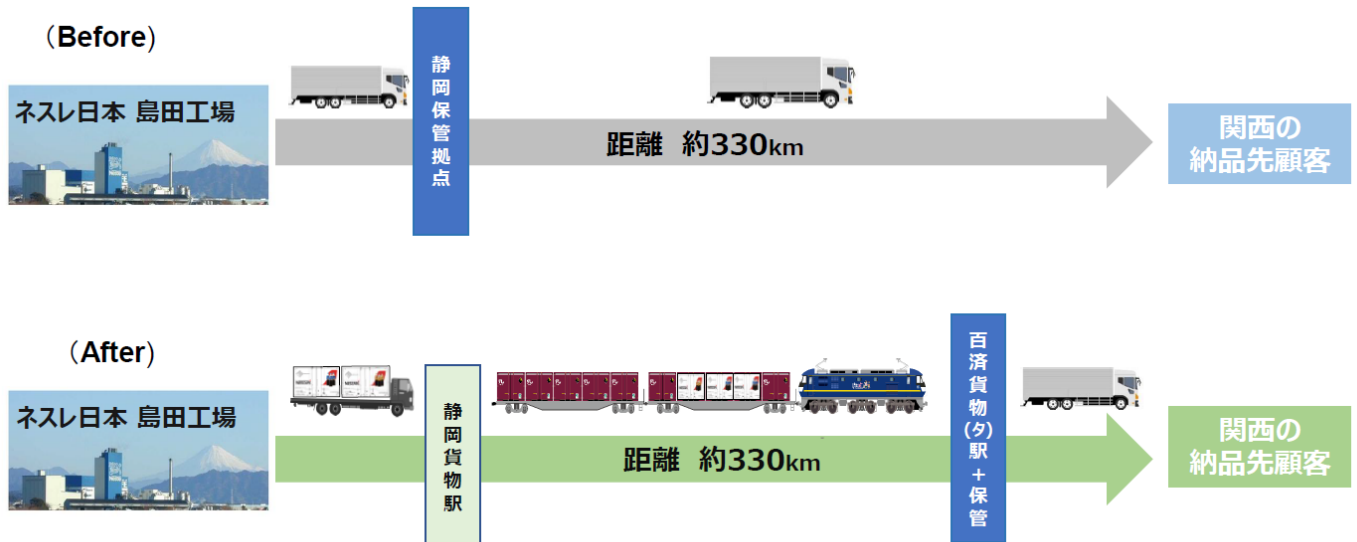


JR 貨物 百済貨物ターミナル駅(大阪府大阪市)に到着した貨物コンテナ



JR 貨物 百済貨物ターミナル駅(大阪府大阪市)での荷下ろしの様子

イメージ図



以上

参考資料

■ネスレ日本株式会社について

ネスレ日本株式会社は、スイスに本社を置く世界最大の総合食品飲料企業ネスレの日本法人です。現時点での国内での生産拠点は、霞ヶ浦工場(茨城県)、島田工場(静岡県)、姫路工場(兵庫県)の3か所です。

工場名	所在地	設立	主な製造製品
ネスレ日本 霞ヶ浦工場	茨城県稲敷市	1978年	コーヒー、菓子、栄養補助食品
ネスレ日本 島田工場	静岡県島田市	1973年	コーヒー
ネスレ日本 姫路工場	兵庫県姫路市	1965年	コーヒー、菓子

事業所一覧: <https://www.nestle.co.jp/aboutus/profile/group>

■「モーダルシフト」とは

輸送の“様式”(モード)を“転換する”(シフト)意味の2語を組み合わせた言葉で、トラックなどの車両輸送と比較して環境負荷が少なく、大量輸送が可能な貨物鉄道や船舶などに輸送を切り替えることを指します。二酸化炭素(CO₂)の排出量において、貨物鉄道輸送はトラック輸送の約11分の1、船舶輸送の約2分の1(※国土交通省ウェブサイト参照)とされており、「モーダルシフト」の推進は環境負荷の低減が期待できます。また、トラックドライバーの長距離走行を減らすことができるため、昨今大きな社会問題となっているトラックドライバーの負担軽減の一助にもなる点も注目されています。ネスレ日本は、2009年貨物鉄道輸送、2015年から船舶輸送を開始して以来、「モーダルシフト」を推進しています。

■これまでのネスレ日本の「持続可能な物流」への取り組み

年	取り組み
2009	・ JR貨物と連携し、貨物鉄道輸送を開始
2011	・ ネスレ日本、JR貨物、全国通運の3社により「神戸モーダルシフト推進協議会」を設立
2014	・ JR貨物などが幹事を務める「イオン鉄道輸送研究会」専用列車へ参画
2015	・ 「イオン鉄道輸送研究会」専用列車による静岡～福岡間での往復鉄道輸送を実現 ・ 川崎近海汽船、日本気象協会とともに天候を活用した海上輸送モーダルシフトを推進し、省エネルギーの実現や物流分野において将来懸念されるトラックドライバーなどの人手不足への対応を進めていくことに合意
2016	・ ネスレ日本 霞ヶ浦工場とネスレ日本 姫路工場間の社内物流において、往復鉄道輸送を開始
2018	・ JR貨物と連携し、土浦駅(茨城県土浦市)の貨物駅を“倉庫”として活用する「土浦モデル」を開始
2020	・ JR貨物など5社と連携し、米等の農作物運送用に空回送されていたコンテナを「ネスカフェ ボトルコーヒー」の輸送に活用する「産業を跨いだ新たな鉄道運送水平共同モデル」を構築
2021	・ トラックCO ₂ 排出削減のための代替燃料「リニューアブル・ディーゼル燃料」の採用に向けた実証実験を実施
2022	・ 顧客向けの製品配送に電気トラックを試験導入 ・ スイス本社と連携し、3工場にトラック待機時間の削減を行う輸送管理システムを導入
2023	・ 三井情報と連携し、配送状況の可視化やトラックの待機時間を把握できる新しい仕組みを導入

2022年共通価値の創造とサステナビリティ ネスレ日本の取り組み:

https://www.nestle.co.jp/sites/g/files/pydnoa331/files/2023-06/CSVreport_2022_japan.pdf

■ネスレの気候変動への取り組みについて

ネスレは、2019年12月に、2030年までに温室効果ガス(GHG)排出量を半減、2050年までに実質排出量ゼロを達成することをコミットメントとして発表しました。これは、地球の気温上昇を1.5度未満に抑えるというパリ協定の最も意欲的な目標に沿ったもので、この発表を契機に、ネスレは気候変動に関わる取り組みを加速させています。

2019年12月9日(木)発行: ネスレ 気候変動への取り組みを加速、2050年までにゼロエミッションの実現にコミット

<https://www.nestle.co.jp/media/pressreleases/allpressreleases/20190912-corporate-zero-emission>

2022年共通価値の創造 (グローバルサイト、英語):

<https://www.nestle.com/sites/default/files/2023-03/creating-shared-value-sustainability-report-2022-en.pdf>

2023年12月6日(水)発行: より良い航路を目指す: ネスレ、海運輸送を低炭素の代替燃料に移行

<https://www.nestle.co.jp/media/newsandfeatures/shipping-fuel-carbon-emission-reduction>